

関する地域社会への貢献を目的として、リサイクルプロセッシング講座を、秋田大学の工学資源学部の協力を得て設置する。講義内容は、製錬残渣やリサイクル原料中に含有される未回収金属元素の

分離回収技術とリサイクルプロセスの開発。製錬工程における各種不純物挙動の解明と製錬プロセスの効率化に関する研究などを柱として、順次拡充する予定。

## 世界銅需要予測に基づく日本及び中国の非鉄金属リサイクルの現状と展望④

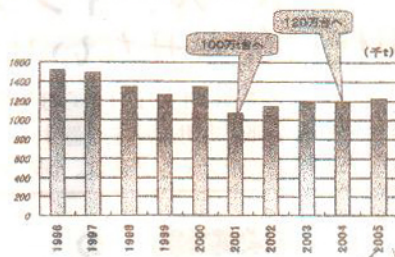
### 橋本健一郎氏講演要旨

次は日本の銅地金需給全体についてみていく。グラフのように、97年には150万トンあった国内需要は2001年には年間100万トン台に落ち込んだ。その後、2004年にはまた120万トン台まで回復している。なぜ2001年に100万トン台まで落ち込んだのか。これは2000年ごろから中国の銅地金需要が急激に伸びだした時期と一致している(労働集約型経済モデル)。これはメーカーの中国への海外移転が原因だ。では、なぜその後また120万トン台まで回復したのだろうか。これは、中国の経済発展に伴う輸出品の需要(商品、製品)や銅スクラップ輸出による国内の原料不足のための代替需要が原因だが、今後世界恐慌による景気後退が確実視されており、再び100万トン台に落ち込むのではないだろうか。ところで、日本では銅地金需給についての予測はどこからも出されていないため他の銅生産から予測してみたいと思う。

伸銅品業界から、昨年(07年)9月22日時点に発表されている中期需要見通しを見ると、対07年度比の2010年の成長率は年率マイナス2.1%とマイナス成

長が予測されている。これはリーマンショック以降の08年9月22日の予測だが更なる景気後退が進んでおり更に下振れする可能性が高い。伸銅品生産月別推移を見ても、本年1月27日に発表された昨年12月の伸銅品生産は5万8,000トンと、なんと昨年対比で30%も減少。その落ち込みは100万トンに乗って以来30年ぶりの落ち込みとなった。年度別推移でも、08年度は85万トンまで落ち込むと予測されており、それが実現すれば1980年ごろの水準まで落ち込むことになる。(統報)

日本の銅地金需要推移



## 日本の伸銅品中期需要見通し

◆ 2010年度の需要予測  
 内需、輸出全体で -2.1% (07年度比) (2008年9月22日時点)

